



DPUB

ウランバートル市における障害者の 社会参加促進プロジェクト

ニュースレター第4号
2017年12月



ソングノハイルハン区がアクセシブルに変身！

2017.11.29



ソングノハイルハン区の労働福祉サービス課は、5月の物理アクセス調査と9月の障害平等研修（DET）を行った結果、「やさしい町づくり」に取り組みました。9月27日から1か月間、職員が6チームに分かれて様々なアクセス改善を実施。スロープの改修や手すりの設置、障害者専用駐車設置、手話研修等、職員が費用を出し合って対応しました。壁に設置した案内板は、どの部署がどこにあるか、誰にでもわかりやすくなっていました。専用駐車スペースは、地面のマークが雪で見えなくなってもわかるように、壁面にもマークが。利用者の意見を取り入れて様々な工夫がなされていました。「障害のある人だけでなく、すべての人に使いやすくなった。今後自分たちにできるアクセス改善を続けていきたい」と、担当のサランツェツェグさんは意欲充分。今後もモデルになるよう活動していきます。



皆さん、こんにちは。DPUBの千葉です。気がつけばもうマイナス30度でした。さて国連で働くためにオーストラリアに留学したことまで前回お話しましたが、今回は修士課程入学の話です。私は国際関係学を勉強したかったのですが、数学科卒のため、まず先に政治や経済を大学で勉強して、その後、修士課程に入と思ってました。ところがオーストラリアでは、日本の大学を卒業していれば、学部に関係なく大学院に入学できたのです。これは他のアジア諸国と比べると有利な条件でした。しかもオーストラリアの修士は1年だったので、3年留学する覚悟で渡航したにも関わらず、実際は1年で済むことが分かり、ちょっと驚きました。学費がうくので、これはこれで助かったのですが、一方で、たった1年で国連で働く専門知識が身につくのか、内心すごく心配でした。日本の中小企業で働いていた自分が、英語半年、修士もたった1年で、国連で働けるのか？？この不安は、入学後に的中したのです・・・（つづく）

日本に出発！

2017.12.1



11月28日、日本で行われる「障害者リーダーシップ育成」研修に参加する研修員がプロジェクト事務所に集合。12月11日の出発を前に事前研修に参加しました。研修員の殆どが障害のある人達。このため介助者も同行します。日本での研修を前に、「障害者権利条約とは？」、そもそも「条約って何？」など、千葉チーフアドバイザーが講師となって勉強会を行いました。知っているようで知らなかったことなど、日本での研修がより効果的になるように、モンゴルでベースづくりを行いました。これに加えて、「お酒の飲みすぎに注意！」、「日本では決まった場所では喫煙できない」など、日本滞在中の注意点についてJICA事務所から説明があり、皆熱心に耳を傾けていました。各自の課題発表も終わり、3時間の研修が終了。後は出発を待つだけとなりました。



JICA DPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが1006件に達成し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

第三回若手障害者リーダー研修

2017.11.27

今回も60名の参加があり大変嬉しく思います。これまで英米の障害者運動を紹介しましたが、今回は、いよいよ日本です。日本人として少しでも参考になれば、という思いで講義しました。日本の障害者運動史を見ると「青い芝の会」の紹介は欠かせないと思っています。脳性まひ者の団体で、優生思想に強く反対し、過激な闘争や主張を繰り返しました。ただこの活動が英米の障害者運動と比較しても先進的な事例であり、その後の運動にも繋がった重要な事例であったと思っています。



その後、自立生活センターや障害者の政策参加についても講義しましたが、日英米の障害者運動を振り返り印象に残った講義を聞くと、「障害の社会モデル」が最も印象的だったと答えてくれました。障害の社会モデルは、知られているようで、十分には知られていない。これは若手障害者だけでなく、福祉関係の行政官や障害者リーダーにも当てはまることだと思います。先進国事例を見ると、社会モデルや障害者の権利を、社会としてしっかり認識した時に、社会が変わってきているように思います。今後も、この考えを広めていきたいと強く思いました。



デフリンピック卓球の金メダリスト 幾島政幸さんが事務所を訪問

2017.11.23

幾島さんは、モンゴルの聴覚障害児に卓球を教えるためにウランバートルにやってきました。幾島さんは、デフリンピックに6大会連続で出場し金18個、銀3個を獲得している日本が誇る卓球選手です。だから目標は、デフリンピックにモンゴルの卓球選手を連れて行くことです！カッコイイですね。

ただ練習環境がまだ整っておらず、「卓球台が2台しかない、最低でももう2台必要だ」と言っていました。自分自身、ボールとかラケットとか、できるだけ多く日本から持ってきたそうですが、卓球台だけはこちらで買うしかありません。プロジェクトで卓球台を購入するわけにもいかず、なんとかモンゴルでお金を集めたいと考えています。皆様からの応援もお願いします。



教育大学ソーシャルワーカー学科 20周年記念でDET

2017.11.29

今年は教育大学にソーシャルワーカー学科ができて20年の節目の年。大学の企画で、11月20日から5日間連続で障害平等研修（DET）を行いました。参加したのは全学年の学生達。約150人が「障害とは？」、「じゃあ、どうする？」という2つのセッションに参加しました。



ファシリテーターを担当したのはゲレルツェツェグさん（肢体不自由）とボロローさん（脳性マヒ）。また、一部の演習をウヤンガさん（脳性マヒ）、グループワークのサポートをミシェールさん（脳性マヒ）が行いました。学生達は、「障害は障害者にあると思っていた」、「大学内の段差が障害だ」など、3時間の研修で障害に対する考え方が変わったようです。

次号を



DPUB メンバーより

Office: Government Building – 2, United Nation's Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com